

IV. 教育内容、学習成果

1. 学部教育理念・目的・目標・方針、修得すべき知識及び能力、カリキュラム体系・特色

(1) 薬学部(薬学科)

薬学部は、本学の建学の理念、教育理念に基づいた行動指針を設定し、質の高い専門職業人の養成を目的として2006年度から6年一貫教育体制となった。2013年度から新たな取組として、学生の自主的・自律的な学修態度を養い、学修意欲の向上を図ることを目的に、学生全員を対象とする「自己評価表(ポートフォリオ)」を導入し、2014年度からwebによる運用を開始した。2015年度より、新たな薬学教育改訂モデル・コアカリキュラムに基づいて新カリキュラムが施行されている。2016年度には薬学教育評価機構の審査を受け、本学部の6年制教育内容等について適合評価を受けた。

薬学部 教育理念

本学の教育理念を基本として、薬と医療にかかわる総合的な科学技術教育を推進することにより、人々の健康を守り、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することを薬学部薬学科の教育理念とする。

①薬と医療にかかわる総合的な科学技術教育を推進する

薬学は、新薬の開発・製造をはじめ、医療現場での薬の調剤や服薬の指導を行う医療人としての知識・技術・態度を修得する学問領域であり、これらを総合的に修得した「科学者としての薬剤師」を養成するための科学技術教育を推進する。

②地域社会ならびに人類の幸福に貢献する

WHO(世界保健機構)及びFIP(国際薬学連合)は、「ファーマシューティカル・ケア」の概念を提唱している。すなわち、「患者の福利厚生を中心に置き、より効果的な薬物治療や薬事衛生に患者個人単位から地域社会単位まで幅広く薬剤師が積極的に貢献する」というものである。まさに、「地域社会ならびに人類の幸福に貢献する薬剤師」をひとつの理想像として描いている。高齢化社会を迎えて、地域医療や在宅医療に貢献する薬剤師等、薬剤師の活躍の場は大きく広がっている。このような社会の要請に応じて、「新しい薬剤師」をつくることも、薬学部の教育の理念である。

薬学部 教育目的

薬学部薬学科の教育理念に沿って、薬剤師としての社会的使命を正しく遂行し得るために必要な豊かな人間性、薬と医療にかかわる科学的知識、研究・実習を通じて体得した技能と問題解決能力を有する人材の養成を本学科の教育目的とする。

薬学部 教育目標

薬学部薬学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 薬と医療に関する基礎および応用の科学ならびに技術の修得
2. 生命を尊重し、幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
3. 薬剤師としての技能と問題解決能力の修得
4. 自主性、協調性および創造性の涵養
5. 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

①薬と医療に関する基礎および応用の科学ならびに技術の修得

新しい薬を開発・製造するため、また、薬の有効性(効果)や安全性(副作用)を調べるために最新の科学技術が要求される。これら最新の科学技術を有効に活用するためには、基礎的な科学技術を十分に修得しておく必要がある。したがって、薬学を学ぶためには、「基礎および応用の科学ならびに技術の修得」が必須の条件となる。

②豊かな人間性の涵養

薬局や病院等、医療の現場で働く薬剤師には、特に、「豊かな人間性」が必要とされる。患者との対話(コミュニケーション)を通して、薬の専門家としての能力を最大限に発揮することができる。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な10の資質*の養成が含まれる。

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性と、臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。

*: 薬剤師として求められる基本的な資質

① 薬剤師としての心構え ② 患者・生活者本位の視点 ③ コミュニケーション能力 ④ チーム医療への参画 ⑤ 基礎的な科学力 ⑥ 薬物療法における実践的能力 ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力 ⑧ 研究能力 ⑨ 自己研鑽 ⑩ 教育能力

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

薬学部薬学科の学位授与の方針に基づき、全学年を通して、薬学教育モデルコアカリキュラムに基づく教育・研究に加えて本学独自の教育課程を展開する。また、チーム医療の重要性を体験する教育プログラムなどを通して、本学で学んだアイデンティティが自覚できるプログラムを構築する。その教育課程の編成・実施の方針を以下に示す。

1. 高い倫理観と豊かな人間性をもつ薬剤師を養成するため、倫理や法規制度に関連する科目ならびにグループ討議を多用したコミュニケーション教育科目を配当する。
2. 薬学専門教育へ向けての基礎学力向上を目的とした教育プログラムを低学年において配当する。また、基礎薬学領域から社会薬学領域、衛生薬学領域、医療薬学領域へと順次段階を経て総合的に修得できるよう、専門教育科目を中心とした教育プログラムを展開する。
3. 医療系総合大学の利点を活かし、薬剤師を含めた医療従事者の職能を理解し、チーム医療の基礎となる全学部共同の教育科目を配当する。また、長期実務実習を配当し、4年次までに修得した知識・技能・態度を医療現場で実践して、地域的視点および国際的視野を持つ薬剤師として必要な基礎的・応用的能力を養成する。
4. 4年次から6年次にかけて、科学者としての薬剤師の能力を涵養するために、配属講座にて少人数制による総合薬学研究を行う。併せて、下級学年の学生の実験指導を通じて、後進の育成の重要性を体験する。
5. 科目の評価は、知識領域については主に試験、技能や態度についてはレポート・チェックリスト・ルーブリック等を用いて実施する。薬学実務実習についてはルーブリックをもとに形成的評価を継続的に行い、指導薬剤師および実務家教員による総合評価を行う。卒業研究は、配属講座教員による形成的評価、卒業研究論文および発表会の内容についてルーブリック等を用いて評価する。
6. 6年間の統合された学修評価は、1年次から担任との面談(年2回)によって作成されている学生カルテや自己評価シートを用いて、配属講座担当教員との面談によって到達度を評価する。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

薬学部薬学科では、学位授与の方針の要件を修得し、チーム医療を始め地域社会や国際社会に貢献できる自立した薬剤師を養成することを目標としています。そのため、本学科では学位授与の方針の要件を、より効果的に達成しうる資質を持った以下のような人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉活動を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 薬学を学ぶ基礎学力*を有し、高い学習意欲のある人
4. 主体性を持って様々な人々と協同して学ぶ意欲のある人
5. 他の医療スタッフと協働し、薬剤師として活躍したいという強い意志を持っている人

6. 薬学分野の様々なことに強い好奇心と探求心を持ち、最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

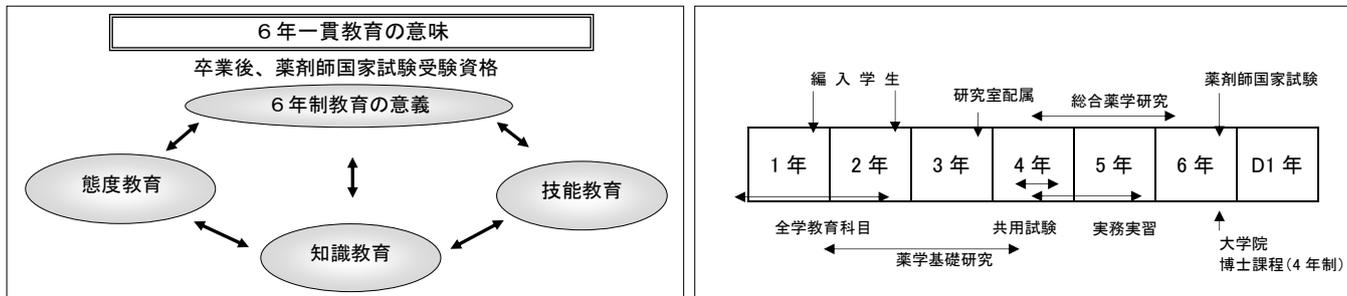
***基礎学力について**

薬学部薬学科では、入学後、専門科目の基礎として、医薬品の定量的な扱いのための化学計算、物性の理解のための物理化学、医薬品が作用する生体の働きを理解するための有機化学・生化学などの科目があります。また、世界共通の効果作用を持つ医薬品の理解には英語、そして実験実習には英語論文の理解が必要です。すなわち、高校で学習した数学、英語、化学、生物、物理などの知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

薬学部学生が修得すべき知識及び能力

1. 生命の尊重を基本とした他者に対する深い愛情と豊かな人間性
2. 最新の医療分野の進展を理解し、それを遂行できる薬学の基本的知識・技術
3. 医薬品に関する基礎および応用の科学的知識
4. チーム医療を担う一員として、他のスタッフと協調して医療に貢献できる態度と技能
5. 国際的および地域的視野を有する医薬品の専門家として活躍できる能力
6. 薬剤師として保健・医療分野における社会的使命を遂行しうる能力

◆カリキュラムの特色



●薬学科カリキュラムの特色

①教科内容の系統化:

基礎薬学系科目(準備教育を含む)、医療薬学系科目、社会薬学系科目に分類し、各系内および各系間の系統的関連性を明確化することにより、科目の位置付けが学修者にとってわかりやすい配置にしている。

②補正教育と教養科目の充実:

高校のカリキュラムの多様性に対応し、特に、化学・生物・物理に関する補正教育科目を1年次前期に配当している。さらに、2~4年次には理解の到達度が十分でない学生に対応する特別演習科目を配当し、少人数制で十分な到達度が得られるよう対応している。医療人として幅広い教養を身につけるため、教養科目を重視し、英語科目は4年間必修とし、また、人文・社会科学系教養科目を選択科目(8科目中3科目を必修)として配当している。

③全学教育科目による医療系総合大学としての教育:

薬学部のみならず、全学の教育理念をふまえて、幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養、大学での学ぶ力や専門性を支え、地域社会ならびに国際社会で活躍する総合的人間力を身につける基盤として「全学教育科目」を配置している。特に1年次前期には全学部共通する総合科目として「多職種連携入門」(必修)を配当している。

④モチベーションを高め自律的な学修態度を養う教育:

膨大な授業科目の位置付けを理解し、自分自身の薬剤師像を明確にし、目的を持って学修するために、1年次に「早期体験学習」(必修)を授業科目として配置している。本科目では、病院、保険薬局、薬剤師関連施設等を訪問して、医療現場における薬剤師の役割を認識するとともに、実際に体験学習したことを通じ、モチベーションを高めている。また、「基礎薬学概論」、「医療薬学概論」をそれぞれ1年次に開講し、6年一貫教育における各授業科目の位置付けや、学修の仕方、態度等を学ぶことができるようにしている。

また、学生は、入学から卒業までの6年間、自分自身の学修目標等に関する「自己評価表(ポートフォリオ)」を作成する。これは、各年度・学期初めに担当教員との面談を通じて、①前年度の目標達成度・成果、②前年度の反省と今後の活かし方、③今年度(前期・後期)の目標と目標達成への取組の各項目について記載するもので、学生が自身の学修を見つめ直すことにより、自主的・自律的な学修態度を養うとともに学修意欲の向上を図っている。

⑤専門科目の系統化・科目間の連携強化・先端医療に関する科目:

モデル・コアカリキュラムを網羅し、かつますます高度化する医療に対応するための専門科目を多数配当している。基礎薬学系科目は学年の進行に伴い、段階的に理解度が高まるよう科目の開講時期を調整し、科目間の連携を充実させたほか、5~6年次にゲノム創薬に対応する実践的な知識を身につけられるようにしている。医療薬学系科目では従来の基礎的科目に加え、先端医療に対応する科目を新設したほか、医療従事者(医師、薬剤師)を招聘し、現場に即した実践的な知識の修得や演習等により総合的に学修することができる。また先端医療に関するより実務的な学修を目的とした科目も5~6年次に配当している。

⑥社会薬学系科目の充実:

地域医療・福祉に係る薬剤師の役割に関して理解を深めることを目的とし、社会薬学系科目を充実させている。また、医療の高度化に伴う医療人としての倫理、患者や医療スタッフとの円滑なコミュニケーションをとるために必要な知識・態度・技能を身につける科目を配当している。また、5~6年次には、社会情勢の変化に適宜対応できることを目的とした科目を配当している。

⑦実務実習関連科目への対応:

6年制教育で重視される実務実習(病院実習・薬局実習)の学修効果を高めるため、対応する事前学修科目を充実させている。従来から開講している学生実習に加え、事前実習では、病院薬局や保険薬局とほぼ同様の設備の模擬薬局を使用し、臨場感のある実務系実習を行う。また、4年次にはその前段階として、コミュニケーションや態度教育を主目的とした実習、実務実習に必要な基礎的知識の確認と応用を主目的とした実習を実施することにより、4年次までに学修した基礎的知識を活用できるよう、演習や実習形式で学ぶ科目を配当している。

⑧科学者としての薬剤師教育:

薬剤師は、化学物質としての医薬品の適正使用に関するエキスパートであり、医薬品に関する情報・取扱い・服薬に関する指導等に関して、科学的な観点から情報提供を行う立場にある。薬剤師として適切な情報提供ができるよう、学生実習(基礎薬学、衛生薬学、医療薬学系実習)に加えて、2年次から自由選択科目として基礎的な研究を行う科目を設け、各講座で実験研究を体験し、科学的なものの見方、態度、グループ作業による協調性等の科学者として必要な態度が身につけられるようにしている。また、4年次には研究室に配属され、4年次から総合薬学研究(卒業研究)を通して薬剤師として必要な知識・技能・態度を総合的に修得できるようにしている。

⑨実務実習:

実務実習は病院と薬局をあわせて5か月間、5年次に全員が北海道内の施設において実施している。その間、本学教員が巡回指導を行い、実習内容の把握・調整、受入施設の担当指導薬剤師との意見交換等を行うほか、本学実務実習専用サイト「実務実習支援システム」を通じた日常的な実習進捗状況管理により円滑な実習の実施に努めている。

⑩新カリキュラムにおける変更点:

2006年度より導入された本学6年制カリキュラムは、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に伴い2015年度入学生より改訂されている。新カリキュラムにおいても上記①~⑨の特色は継承しつつ、さらに「地域医療・福祉の理解と実践」や「国際的視野の涵養」を指向した本学独自の選択科目を1年次から6年次まで履修可能な形で配当している。また、4年次や6年次にはアドバンスト教育科目を充実させ、学生のニーズに合わせて選択可能な多様なカリキュラムを提供している。

専門教育科目

1 必修科目 その2

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考				
				必修		選択		1学年		2学年		3学年		4学年			5学年		6学年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期
実務薬学 ／ 社会薬学 ／ 他	実務薬学入門	-	1																	
	医薬品情報学	-	1																	
	実務薬学Ⅰ	-	2																	
	実務薬学Ⅱ	-	2																	
	地域医療学	-	2																	
	薬剤学	-	1																	
	社会薬学Ⅰ	-	1																	
	社会薬学Ⅱ	-	1																	
	基礎薬学概論	青木 ほか	1	20																
	医療薬学概論	小林(道) ほか	1		20															
統合演習	実務実習前実践演習Ⅰ	-	2																	
	実務実習前実践演習Ⅱ	-	2																	
	実務実習前実践演習Ⅲ	-	2																	
	基礎薬学複合演習Ⅰ*	-	1															30		
	基礎薬学複合演習Ⅱ*	-	1															30		
	基礎薬学複合演習Ⅲ*	-	1															30		
	衛生薬学複合演習*	-	1															30		
	医療薬学複合演習Ⅰ*	-	1															30		
	医療薬学複合演習Ⅱ*	-	1															30		
	実務社会薬学複合演習*	-	1															30		
実習	基礎薬学総合演習	-	3															90		
	衛生薬学総合演習	-	2															60		
	医療薬学総合演習Ⅰ	-	3															90		
	医療薬学総合演習Ⅱ	-	2															60		
	実務社会薬学総合演習	-	3															90		
	基礎薬学Ⅰ実習	-	2															90		
	基礎薬学Ⅱ実習	-	2															90		
	衛生薬学実習	-	2															90		
	基礎薬学Ⅲ実習	-	2															90		
	医療薬学Ⅰ実習	-	2															90		
実務	医療薬学Ⅱ実習	-	2															90		
	医療薬学Ⅲ実習	-	4															180		
研究	実務実習(病院)	-	10															450		
	実務実習(薬局)	-	10															450		
	総合薬学研究	-	10															450		

2 選択科目

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考				
				必修		選択		1学年		2学年		3学年		4学年			5学年		6学年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期
基礎選択	医療推計学	-	1																	
	有機構造分析学	-	1																	
	局方試験法	-	1																	
	生体機能診断学	-	1																	
	臨床薬理学	-	1																	
	遺伝子工学	-	1																	
	漢方薬学概論	-	1																	
	薬学特別演習Ⅰ	-	1																	
	薬学特別演習Ⅱ	-	1																	
	薬学特別演習Ⅲ	-	1																	
オリジナル 選択	薬学特別演習Ⅳ	-	1																	
	医療福祉活動演習(コミュニケーション)	-	1															30		
	医療福祉活動演習(福祉)	-	1															30		
	医療福祉活動演習(在宅)	-	1															30		
	グローバルコミュニケーションⅠ	村井 ほか	1															30		
	グローバルコミュニケーションⅡ	村井 ほか	1															30		
	薬学基礎研究Ⅰ	-	[1]																	
	薬学基礎研究Ⅱ	-	[1]																	
	薬学基礎研究Ⅲ	-	[1]																	
	アドバンス 選択	応用有機化学特論*	-	1															20	
応用物理化学特論*		-	1															20		
応用生物化学特論*		-	1															20		
応用衛生学特論*		-	1															20		
臨床栄養学*		-	1															20		
臨床画像解析学*		-	1															20		
処方解析演習*		-	1															30		
看護実践学*		-	1															20		
フィジカルアセスメント*		-	1															20		
レギュラトリーサイエンス*		-	1															20		
ヘルスエコノミクス*	-	1															20			

- ・ 専門教育科目164単位以上修得
- ・ 単位数欄が[]の科目は、卒業単位に含まない。
- ・ * は、アドバンス教育科目を示す。

・ 全学教育科目及び専門教育科目を総計200単位以上修得
(必修136単位、選択18単位、基本実習16単位、実務実習20単位、総合薬学研究10単位)

専門教育科目

1 必修科目 その2

系	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考				
					必修		選択		1学年		2学年		3学年		4学年			5学年		6学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期
実務薬学 ／ 社会薬学 ／ 他	実務薬学入門	櫻田 ほか	1							20											
	医薬品情報学	小林(道) ほか	1							20											
	実務薬学Ⅰ	-	2									30									
	実務薬学Ⅱ	-	2										30								
	地域医療学	-	2											30							
	薬剤学	-	1												20						
	社会薬学Ⅰ	-	1													20					
	社会薬学Ⅱ	-	1													20					
	基礎薬学概論	-	1	20																	
	医療薬学概論	-	1		20																
統合演習	薬学英語Ⅰ	-	1							30											
	薬学英語Ⅱ	-	1													30					
	実務実習前実践演習Ⅰ	-	2													60					
	実務実習前実践演習Ⅱ	-	2													60					
	実務実習前実践演習Ⅲ	-	2													60					
	基礎薬学複合演習Ⅰ*	-	1															30			
	基礎薬学複合演習Ⅱ*	-	1															30			
	基礎薬学複合演習Ⅲ*	-	1															30			
	衛生薬学複合演習*	-	1															30			
	医療薬学複合演習Ⅰ*	-	1															30			
医療薬学複合演習Ⅱ*	-	1															30				
実務社会薬学複合演習*	-	1															30				
総合演習	基礎薬学総合演習	-	3																90		
	衛生薬学総合演習	-	2																60		
	医療薬学総合演習Ⅰ	-	3																90		
	医療薬学総合演習Ⅱ	-	2																60		
	実務社会薬学総合演習	-	3																90		
実習	基礎薬学Ⅰ実習	吉村 ほか	2						90												
	基礎薬学Ⅱ実習	西 ほか	2						90												
	衛生薬学実習	-	2							90											
	基礎薬学Ⅲ実習	-	2								90										
	医療薬学Ⅰ実習	-	2								90										
	医療薬学Ⅱ実習	-	2									90									
	医療薬学Ⅲ実習	-	4										180								
	実務実習(病院)	-	10													450					
	実務実習(薬局)	-	10													450					
	研究	総合薬学研究	-	10															450		

2 選択科目

系	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考				
					必修		選択		1学年		2学年		3学年		4学年			5学年		6学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期		
基礎選択	医療推計学	-	1							20											
	有機構造分析学	-	1								20										
	局方試験法	-	1								20										
	生体機能診断学	-	1									20									
	臨床薬理学	-	1									20									
	遺伝子工学	-	1									20									
	漢方薬学概論	-	1									20									
	薬学特別演習Ⅰ	小林(健) ほか	1				30														
	薬学特別演習Ⅱ	-	1							30											
	薬学特別演習Ⅲ	-	1								30										
オリジナル 選択	薬学特別演習Ⅳ	-	1									30									
	医療福祉活動演習(コミュニケーション)	齊藤	1												30						
	医療福祉活動演習(福祉)	木村(真) ほか	1												30						
	医療福祉活動演習(在宅)	浜上 ほか	1												30						
	グローバルコミュニケーションⅠ	村井 ほか	1											30							
	グローバルコミュニケーションⅡ	村井 ほか	1												30						
	薬学基礎研究Ⅰ	全教員	[1]				30														
	薬学基礎研究Ⅱ	-	[1]						30												
	薬学基礎研究Ⅲ	-	[1]										30								
	アドバンス 選択	応用有機化学特論*	-	1										20							
応用物理化学特論*		-	1										20								
応用生物化学特論*		-	1										20								
応用衛生学特論*		-	1										20								
臨床栄養学*		-	1										20								
臨床画像解析学*		-	1															20			
処方解析演習*		-	1															30			
看護実践学*		-	1															20			
フィジカルアセスメント*		-	1															20			
レギュラトリーサイエンス*		-	1															20			
ヘルスエコノミクス*	-	1															20				

- ・ 専門教育科目164単位以上修得
- ・ 単位数欄が[]の科目は、卒業単位に含まない。
- ・ * は、アドバンス教育科目を示す。

・ 全学教育科目及び専門教育科目を総計200単位以上修得
(必修136単位、選択18単位、基本実習16単位、実務実習20単位、総合薬学研究10単位)

専門教育科目
1 必修科目 その2

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考	
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
実務薬学 / 社会薬学 / 他	実務薬学入門	-	1														
	医薬品情報学	-	1														
	実務薬学Ⅰ	平野 ほか	2														
	実務薬学Ⅱ	早坂 ほか	2														
	地域医療学	吉田 ほか	2														
	薬創疫学	小林(道)	1														
	社会薬学Ⅰ	久保 ほか	1														
	社会薬学Ⅱ	久保 ほか	1														
	基礎薬学概論	-	1														
	医療薬学概論	-	1														
実践	実務実習前実践演習Ⅰ	基礎薬学系	2														
	実務実習前実践演習Ⅱ	医療薬学系	2														
	実務実習前実践演習Ⅲ	社会薬学系	2														
	基礎薬学複合演習Ⅰ*	高上馬 ほか	1														
	基礎薬学複合演習Ⅱ*	吉村 ほか	1														
	基礎薬学複合演習Ⅲ*	青木 ほか	1														
	衛生薬学複合演習*	小林(大) ほか	1														
	医療薬学複合演習Ⅰ*	柳川 ほか	1														
	医療薬学複合演習Ⅱ*	小林(道) ほか	1														
	実務社会薬学複合演習*	平野 ほか	1														
複合	基礎薬学総合演習	基礎薬学系	3														
	衛生薬学総合演習	衛生薬学系	2														
	医療薬学総合演習Ⅰ	医療薬学系	3														
	医療薬学総合演習Ⅱ	医療薬学系	2														
	実務社会薬学総合演習	社会薬学系	3														
	総合	基礎薬学系	3														
実習	基礎薬学Ⅰ実習	-	2														
	基礎薬学Ⅱ実習	-	2														
	衛生薬学実習	小島 ほか	2														
	基礎薬学Ⅲ実習	岡崎 ほか	2														
	医療薬学Ⅰ実習	飯塚 ほか	2														
	医療薬学Ⅱ実習	柴山 ほか	2														
	医療薬学Ⅲ実習	平野 ほか	4														
	実務実習(病院)	平野 ほか	10														
	実務実習(薬局)	平野 ほか	10														
	研究	総合薬学研究	各研究室	10													

2 選択科目

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎選択	医療推計学	小林(道) ほか	1													
	有機構造分析学	山田	1													
	局方試験法	佐藤 ほか	1													
	生体機能診断学	吉村 ほか	1													
	臨床薬理学	泉 ほか	1													
	遺伝子工学	岡崎	1													
	漢方薬学概論	堀田	1													
	薬学特別演習Ⅰ	-	1													
	薬学特別演習Ⅱ	山田 ほか	1													
	薬学特別演習Ⅲ	木村(真)	1													
オリジナル選択	薬学特別演習Ⅳ	村井 ほか	1													
	医療福祉活動演習(コミュニケーション)	齋藤	1													
	医療福祉活動演習(福祉)	木村(真) ほか	1													
	医療福祉活動演習(在宅)	浜上 ほか	1													
	グローバルコミュニケーションⅠ	村井 ほか	1													
	グローバルコミュニケーションⅡ	村井 ほか	1													
	薬学基礎研究Ⅰ	-	[1]													
	薬学基礎研究Ⅱ	全教員	[1]													
	薬学基礎研究Ⅲ	全教員	[1]													
	アドバンス選択	応用有機化学特論*	山田 ほか	1												
応用物理化学特論*		吉村 ほか	1													
応用生物学特論*		大澤 ほか	1													
応用衛生学特論*		寺崎 ほか	1													
臨床薬学*		早坂 ほか	1													
臨床画像解析学*		飯塚 ほか	1													
処方解析演習*		小林(道) ほか	1													
看護実践学*		山田(律) ほか	1													
レジナルアセスメント*		泉 ほか	1													
レギュラトリーサイエンス*		西 ほか	1													
ヘルスエコノミクス*	久保 ほか	1														

- ・ 専門教育科目164単位以上修得
- ・ 単位数欄が[]の科目は、卒業単位に含まない。
- ・ *は、アドバンス教育科目を示す。
- ・ 全学教育科目及び専門教育科目を総計202単位以上修得
(必修136単位、選択20単位、基本実習16単位、実務実習20単位、総合薬学研究10単位)